

総 括

国際化推進機構副機構長、経済学部教授

巖 成男 氏

○**鹿目** 本日は全体討議の最後に経済学部教授、巖成男先生に総括をお願いしております。巖先生、よろしくお願いいたします。

○**巖** ありがとうございます。ただいまご紹介にあずかりました経済学部の巖成男です。

わたくし自身、現在、立教大学国際化推進機構の副機構長として松井機構長や池田元機構長らと一緒に、本学の国際化を推進する立場にありまして、普段から一緒に議論を重ねてきているのですが、本日は松井先生と池田先生のお二方の国際化に関する考えをじっくり伺う機会となり、大変多くのことを学び、考える、有益な時間になりました。

さて、池田先生よりシンポジウムの最後の総括を、と言われていましたので、まったくと言っていいほど自信はないですが、頑張っけて本日の講演と議論の総括のような話をしてみたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のシンポジウムにおいては、「グローバル人材」、「グローバルリーダー」の育成について多くの議論が行われました。人物像から有すべき能力と資質、そして座学とアクティブラーニングを通じた教育プログラムなど、についてブレインストーミングをする時間でした。

特に、私たち立教大学が育てようとするグローバル人材とリーダーたる者は、グローバル現代社会の変化に敏感であり、機敏に対応できる能力を備えているのみならず、変化を先取りし、働きかけ、変えていく意志と能力（二つを合わせて「素質」と言えるでしょうか）、をもつ人間である、というところでは非常に共鳴いたしました。

そこで、二点ばかり、グローバル現代社会の変化について考えてみたいと思います。まず、「グローバル化」ですが、直近においては大きく変化しているように思



います。私たち経済学の世界で最も有名な雑誌である『エコノミスト』誌の6月17日号のテーマが、Reinventing Globalization、というものでした。グローバル化の再発見、再構築や再編など、もっと別の言葉もあったはずですが、物々しい「再発見」という語が使われていました。最近のグローバル化の大きな旋回、それに伴うグローバルな融合・連結・協働が、排除・分断・対立に変わっていく世界が描かれていました。このような時代、このような世界であって、グローバル人材・リーダーの役割は、ますます複雑、困難になるかもしれません。しかし、いつの時代よりも必要ではないかとも思っています。従いまして、新しい時代を変革し、その変化をリーディングするグローバル人材を育成する私たちの仕事は、大変な作業ではありますが、絶対に必要で、もっと重要であると思います。

本日のシンポジウムでは、少しだけですが、私たちの仕事の成果についても確認できました。すでに立派な日本語教師となって、グローバルに活躍している益本さんの「学生の目線に立って、一緒に学ぶ姿勢を持ち続けていること、言語教育において、言葉の文脈や背景、そしてその展開までを射程に入れていること」には強く頷けます。留学生スピーチコンテストの企画と運営を通じて成長してきた中内さんの「言語習得の評価基準は、自分の言葉で自由に自分の意思が話せることである」という指摘はもっともであります。また、3年生である小西さんの日本語授業のTA業務を通して身につけた「異文化交流・コミュニケーションの場の価値の認識」も、日本語教育センター並びに立教大学が進めているグローバル教育の目標が見事に達成できているエビデンスではないでしょうか。3人ともに、グローバルコンサルティングの専門家の中村さんと堂々とやり取りをしていて、「大したものだな」と思いながらお話を伺いました。

次に、現代社会のもう一つの重大な変化として、経済格差がますます拡大している現実があります。格差の拡大は、社会の分断を生み、それがまた差別と対立を増幅させていく、非常に厄介なサイクルが日本のみならず、世界各国でも見られています。このような時代と状況にあって、私は、海外留学できる学生の層はますます減少していくのではないかと、憂慮しています。その際に、少し豊ではなくても、海外留学と異文化体験ができる短期留学生プログラムの重要性が増していくのではないかと思うわけです。

先ほどの丸山先生による日本語教育センターの教育活動の説明でも言及されましたが、2016年からスタートした日本語教育センターの短期日本語プログラム

は、今日では立教大学のグローバル教育の重要な柱の役割を果たしています。今後、少し費用の低い海外留学プログラムとして、所得水準の低い学生たちにも日本留学の機会を与えることのできる教育ツールとして、ますます拡充していければいいなと強く思っています。日本で学び、滞在する期間は短かったとしても、本日登壇していた学生さんや先生方のような立教の関係者、さらには町で出会った日本の誰か、と長期に亘って繋がることができれば、日本留学の成果はある程度保障できるのではないのでしょうか。

長くなりましたが、本日の先生方の講演、そして留学生のキャリアコンサルティングが専門である中村さんの話の中で、そして全体的議論の中で、特に私の中で、「私たちが育成すべきグローバル人材が備える素質は、スキルではなく、マインドであり、構えと姿勢である」という認知ができたことを喜び、総括を終えたいと思います。

どうもありがとうございました。

○鹿目 巖先生、ありがとうございました。